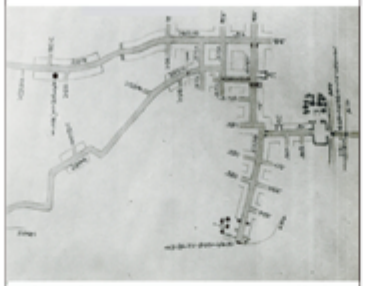
黒石市の概要

■ 元禄7年の黒石市街地



黒石市は、本州西北端の青森県の南部に位置し、北は青森市、西は弘前市、東は十和田市に近接する内陸の都市である。人口３６，７７１人、面積は２１６．９６平方キロメートル（平成２１年推計人口）となっており、市街地は西端に位置し、東部は八甲田山に続く山地である。

現在の中心市街地では、江戸時代初期の町割が残り、江戸時代後期には、弘前藩の支藩として黒石陣屋がおかれた。多くの旅人が上ノ坂を通って黒石に入り、前町、中町、浜町を通って外ヶ浜（青森）へ向かったことで中町、前町は、浜街道と呼ばれ商人町として栄えた。また、通りに面した町家の正面に設けられたと庇により、私有地でありながら半公共の歩道として利用される「こみせ」が現在にも多く残っている。平成１６年に黒石市は、歴史的景観保存条例を制定し、また平成１７年に文化庁による重要伝統的建造物群保存地区に選定され、町並みの保存・修理・修景活動を展開している。

■ 大正2年の黒石市街地

黒石市は、昭和２９年（１９５４年）に南津軽郡黒石町、中郷村、六郷村、山形村、浅瀬石村が合併し誕生した。昭和３１年、南津軽郡尾上町追子野木との合併を経て市域を拡大した。

隣接する弘前市とは、弘南鉄道で結ばれており、自動車交通に関しては、国道弘前黒石線が両都市間を結んでいる。

また、東部には、東北自動車道が整備されており、自動車交通の利便性が高い都市であるといえる。郊外を走る幹線道路沿道には、ロードサイドショップが集積し、周辺に住宅団地が立地している。

一方で、市中心部では、空き地、空き家、空き店舗、駐車場の増加が顕著であるものの、「こみせ通り」やそれに面する重要文化財の「高橋家」、酒蔵、「かぐじ広場」、「松の湯」等、多くの景観・文化資源を有しており、行政、TMOをはじめ、複数のまちづくりにかかわる活動主体も存在している。

■ 現在の黒石市街地

課題対象地区と概要

本ワークショップの課題対象は、黒石市の中心部にあり、地域特有の建築様式である『こみせ』を有する地区である。特に、こみせ通りは、国の重要文化財に指定された高橋家住宅などの古くから残る建築物が立ち並び、伝統的な『こみせ』の連続性を感じることができる空間となっている。しかし、地元では１９８０年代に、こみせ通りに面した旧家が手放す土地に、マンションの建設計画が持ちあがったことで、こみせの保存に対する危機感が高まった。平成元年に地元有志が、用地を買収すると、平成２年に「こみせの会」を設立して本格的に伝統的なまちなみを生かした地域の活性化に取り組んだ。こうした取り組みの中、平成１７年、こみせ通りは重要伝統的建造物群保存地区に指定され、「津軽黒石こみせ駅」、「多目的ホールこみせん」など様々な施設が整備されるなどして現在に至っている。

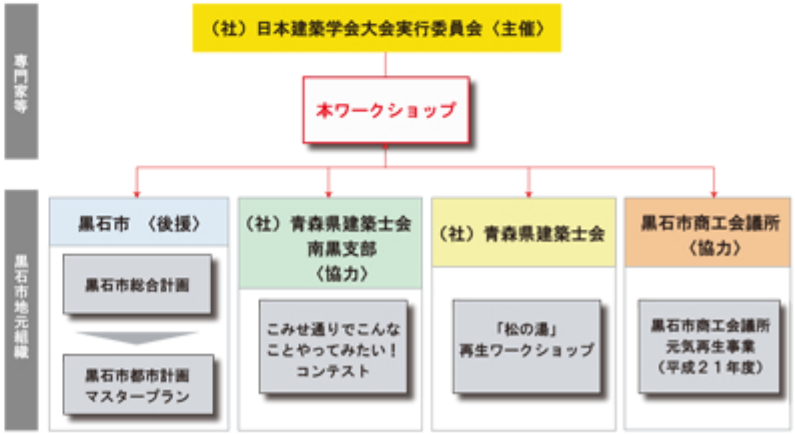
一方で、周辺地域をみると、最寄駅の弘南鉄道黒石駅からは『こみせ』への繋がりを感じることができず、接道義務を果たせない多くのかくじは、空地、駐車場のまま放置され、人口、商業活力の低下が著しい状況である。これらの諸問題により生活利便性の低下が懸念される地区である。

■ 黒石市中心市街地

自治体における取組み

黒石市は、中心市街地を歴史・文化を育んできた場としてだけでなく、市の顔として位置付け、その再活性化を目的に、平成１１年に中心市街地活性化基本計画を策定した。さらに、平成１６年に黒石市歴史的景観保存条例を制定している。黒石市が土地を購入し、整備した『かくじ広場』では、既存の『こみせ』から『かくじ』への繋がりを感じられる回遊性に富んだ空間が創出されている。

また、平成２１年度には、黒石市商工会議所元気再生事業が採択され、黒石市総合計画、黒石市都市計画マスタープランとともに、現在、対象地区のまちづくりに関する計画検討が進んでいる最中である。

今後は、こみせ通りの中で重要な役割を担う松ノ湯をはじめとした点在する資源を如何にまちづくりに活かすのかという手法、地域住民にとっても継続的にまちに住み続けられる仕組みづくりが求められている。

シャレットワークショップの位置付けと協力の体制